

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0176700540), 法人名 (有限会社 そうせい舎), 事業所名 (グルホブホームあつたか大黒Ⅱ号館), 所在地 (稚内市大黒5丁目10-23), 自己評価作成日 (令和1年8月27日), 評価結果市町村受理日 (令和元年10月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑顔で/ゆったりと楽しく/いつも寄り添って 14年間掲げてきた理念です。建物が変わっても訪れる人に「ここはなんかあづましい」「なんか懐かしい」と言ってもらえる様なⅡ号館でありたいと思っています

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0176700540-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年9月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部に近い大黒地区に立地し、交通や買い物の利便性も高く、また自然も多い静かな地域で、新しい移転・新築という門出にふさわしい環境下といえる。当事業所は今年4月に市内の宝来町から移転、新築の建物で、当地大黒町で事業を継続開始となった。法人としては、宅老所として長年老人をお世話してきた経緯があり、また当初はユニット8名で平成17年に開始継続してきたが、今回の移転によりユニット9名と1名分増室となり、新築の事業所の2階で生活を続けている。事業所の1階は従前のデイサービスを引き継いでおり、また当事業所と隣接して、平成22年に開設したあつたか大黒Ⅰ号館があり、1階と2階は廊下で繋がれ行き来が自由になっている。3つの事業所が1か所に統合され、今まで以上にⅠ号館、Ⅱ号館、デイサービスの介護員の一体化が強く意識され、相互協力体制が維持されている。当事業所の介護に対する基本的なスタンスと、入浴や外出等々の利用者が選択できるサービスの実施という、当たり前だが困難な課題にあえて取り組んでいる熱意に、今後も大いに期待し成果を見守りたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and user satisfaction levels.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大黒地区へ移設して来ても職員が介護の礎として共有していた宝来館の理念を掲げ実践している	当地区に移転して日は浅いが、今までの宝来館の理念「いつも笑顔で・ゆったりと楽しく・いつも寄り添って」を継承し、新しい地域、新しい建物で実践に活かそうと努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	越してきて日も浅く地域の方との日常的な交流はまだ出来ていない。今後、散歩や買い物などで顔なじみになって行こうと思っている	当地域との交流はあいさつ程度であるが、隣接する1号館が培ってきた実績があるため、今後は協力して地域住民と交流を促進、維持に取り組んでいきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1Fに多目的ホールがありオレンジカフェを開催している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの理念や利用者さん、スタッフを知ってもらえるべく9月上旬に開催を予定している	新しく運営推進委員を選抜し、この地区での課題や、新しい建物での問題点等を検討している。事業所の1階に地域交流室を設けているので、活用についても推進会議に諮っていく予定である。	運営推進会議は、第三者に開かれた論議・報告が前提となっているため、定期開催に心がけ、また内容も行事報告に留まらずにヒヤリハットや事故報告も議案に盛り込み、議事録も利用者宅まで送付し、より一層事業所の理解促進に傾注するように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広報紙を送付し実情や取組をお伝えしている	転居に関して、何度も担当部局と折衝し、今まで以上の関係性が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	土日、夜間は防犯上玄関を施錠している。禁止の対象となる明らかな身体拘束はしていない。移動椅子の鈴をはじめ日常生活上の様々にはその都度話し合いを持ち確認している	拘束について、身体拘束等適正化委員会を立ち上げ、3ヶ月毎に開催し、適正で適切な介護が維持できるように努め、直近の会議や毎日の申し送りで職員にも周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心無い仕草や言葉でも虐待を誘発することに職員は注意を払い防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく職員の権利擁護の制度について理解度は高いとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際は十分な説明をし家族が納得した上で署名、押印して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそうした場を設けてはいないが利用者さんとは日々の会話の中で、ご家族とは面会時や家庭訪問時に意見要望をお聞きしている	あったか風便りを発行・手渡しでお届けし、利用者の日常生活を伝えている。また来訪時には、要望や苦情を言いやすい環境を作り、サービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや管理者との面談の中で職員の意見や提案を聞き代表者に伝えている	何でも何時でも話が出来る職場になるように日頃から、風通しの良い関係を築いており、提案があれば介護現場等で検討し、よりよいサービスになるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の消化促進や資格手当等代表者はし個々の職員の努力や実績を把握している。職員から要望のあった備品はすぐに購入し職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は定期的に社内研修を主宰している。社外研修では勤務日の変更や費用の負担など研修を受ける機会の確保に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議でのグループホーム部会に参加しているが活発な交流は出来ていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の場が変わる事への不安を持たれる方が多いが普段と変わらない接し方をする事でホームに馴染んで頂ける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には出来るだけ副う様に努めている。初期には出来るだけ会いに来られるようお願いしご家族にもホームの実際を知ってもらえる様に図っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等がその時必要としている支援を見極め介護計画に反映している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていく上での知恵や工夫を教えて頂いたりしながら共にここでの暮らしを作り上げている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の困り事や相談事は家族にお伝えし、職員だけで対応しきれない場合はご家族と共に解決にあたっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を設けず友人や知人が訪ねて来られ易い様配慮している	宝来地区から当地に転居し、また新たな関係を築くことから始まったが、従前のように友人知人の来訪は、大歓迎の思いで取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの相性などで席替えをしている。少人数が四六時中顔を合わせている為静いになる事もあるが職員が早期に察しフォローしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は看取りなど利用者さんが亡くなった場合がほとんどで葬儀の相談を受ける事もある。実際は年月とともに疎遠になってしまっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の接しの中で利用者さん個々の希望、意向を把握し出来る事であれば実現する様に努めている	利用者一人ひとりの生活を支援していく中から、好きな事や嫌な事、思いや要望、願いを把握して本人本位の日常になるよう、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時間関係機関などから情報収集しているが概略の場合が多く入居後本人との会話のなかでこれまでの事などお話し頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕、日勤夜勤の申し送りで一人ひとりの状態、トビックスが把握出来るよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は出来るだけ本人やご家族から思いや希望をお聞きし計画に反映する様にしている	モニタリングとカンファレンスを行い、家族の希望と医師のアドバイスを受けながら、介護計画を作成している。体調の変化や病気等により差異が生じた場合は、すぐに対応・変更し、実情にあった介護計画を作成、実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	公的な個人記録は介護計画に副って記入している。気づきや工夫などを記すノートもあり職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化が進み訪問看護ステーションと契約を結んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移設して日も浅くこの地区の地域資源を充分把握し切れてはいない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看取りを望まれている利用者さんのターミナル期には往診可能な医院、病院への転院をお願いさせて頂いている	今までかかっていたかかりつけ医を希望された場合は、職員同行で通院している。また重篤な状態となった場合は、往診医への変更をお願いし、安心できる医療体制で、日々臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護時に情報を伝え個々の利用者が適切な看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には毎日職員が見舞いに行くようにしている。その際看護師と情報交換をする様になっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期指針には同意を頂いているが実際終末期になった段階々で何度も医師、家族職員で方針の共有や確認を行っている	重篤になった場合の終末期介護は、利用者や家族の意向を踏まえながら、希望に沿えるよう努めており、医療面での充実や介護職員の看取り研修を行いながら、最期まで支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急救命講習を定期的に受けているが全ての職員が実践対応を経験している訳ではない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練、津波洪水避難訓練を定期的実施している	年に2回の避難訓練は消防署の立ち合いで実施し、水や食料等々備蓄品も用意している。避難先は近隣の宗教法人の建物の許可を得ており、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の入り口にはドアを開けても素通しにならない様防火のれんをかけている。各居室には表札をかけ利用者さんの家との理解のもと立ち入りの際は声かけやノックをかかさない	接遇は介護の基本であり、礼節について十分に配慮し介護に携わっている。お風呂の脱衣場にはカーテンを用意し、プライバシー確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示したり決めつけたりせず自己決定出来る様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等おおまかなタイムテーブルはあるが利用者さん個々の体調や気分でその日を過ごせる様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際の装いや化粧を本人が楽しめる様支援している。理容師免許を持つスタッフが月1度散髪している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用しているが季節には節句料理と一緒に作ったり外食や出前にするなど食事を楽しめる様支援している。準備や片付けは毎日一緒に行っている	食卓には利用者の傍に職員も同席しながら、同じ食事を取り、明るい雰囲気食が進むように、配慮し支援している。お手伝いもテーブル拭き等をお願いし、毎日の日課となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分表をチェックし個々に応じた量が1日を通じて摂れる様支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者さん個々の力に合わせ歯ブラシ洗口液、ケアブラシなどで口腔ケアしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導時の声かけは自尊心を傷つけない様配慮している。立位が保持できるならトイレでする様にしている	排泄はトイレで、を基本とし、時間誘導や仕草でのサインを見逃さず、自然で無理のない排泄になるよう、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し適時訪問看護師の助言を受け便秘薬の調整をしている。予防のため毎日の軽体操への参加を促している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人的要因で夜間の入浴は出来ない。週2回以上入浴出来る様支援しているが本人が強く拒む場合無理強いはいしない様にしている	毎日、浴槽にはお湯を溜め、いつでも入れる体制で臨んでおり、ひとりにつき週に2~3回程度の入浴を実施している。また1階のデイにも浴室があるため、気分転換も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	下肢にむくみがあったり前夜眠れていない様な利用者さんへはさりげなく休息の声かけをしている。夜間巡回時は眠りを妨げない様に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局から処方薬の内容について説明を受け職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん一人ひとりの今楽しく出来る事、今張り合いを持って出来る事を探り提供するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お祭りなど全員参加の外出はサポートスタッフを頼み出かけている。受診時には寄り道するように努めている。重度化もあり気軽な散歩等日常的な外出は難しい	サポートスタッフにより月に1回は外出を行っている。また散歩や買い物も気楽にできるように努め、特に散歩は日課として行い、近所や前庭を散策、外気浴を行い、閉じこもらない介護を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度所持している利用者さんもいるが買い物は職員に頼み本人が支払をする事はない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日等贈り物があつた際にはお礼の電話をする様に勧めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まだ4ヶ月ほどなのできれいでよそよそしい感じがしています。清潔を保ちながらⅡ号館らしい生活の匂いが染み付いて行ければ良いと思っています。壁に季節や節句の飾りを利用者さんと一緒に作り飾っています	出来立ての新築ホームであり、採光や温度、湿度にも配慮された居間等の共同空間となっている。壁や廊下も派手さを抑えた落ち着いた季節感のある飾りつけとなっており、ゆっくりとした居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を色々考え利用者さんが心地良く過ごせる様工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとカーテンは備え付けてある。その他の者については居室に収まるものであれば制限していない。	居室にはベットと防火カーテンを備え付けており、それぞれの思いが詰まった馴染みのタンス類も見られ、落ち着いた居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の表示板はつけていないが利用者さん同士で譲り合ったり、車椅子を優先したりとそれなりに暮らしている。いつも職員の見守りがあり安全な生活を送っている		